

山に親しみ山に想う(17)

— 韓国の最高峰・漢拏山に登る (2) —

連載

〈文・写真〉岡本

(2) 観音寺コース(2004年7月31日、晴れ)

[観音寺コースは、北麓より登るコースであり、漢拏山登山で最も厳しい。登山路の距離は8.7km
コースタイムは登り5時間である。山頂火口湖白鹿潭の東陵(標高1933m)まで行くことができるが、標高1950mの最高地点のある西陵には、火口湖の周回が禁じられているために行くことができない。]

「今日は漢拏山の頂上まで、観音寺コースという最も難儀な登山路を登った。真夏。30度以上のカンカン照り。そのため手持ちの地図では、登り5時間下り4時間、計9時間のところが、登り5時間28分下り4時間55分、計10時間23分かかった。ダラダラの汗で体力の消耗が激しかったからだろう。特に下りに疲れが出たのだろう。水はポカリスエットボトル2.5リットルと水筒のお茶1リットルの計3.5リットルを持って行ったが、キッチリ飲んだ。台風の進路も気になり、小型ラジオを持って行ったので、ザックは9kg~10kg程で普段より重かった。

5時に起床。5時45分に家を出発。ルート16-11-117を通して、6時10分に観音寺野営登山口に到着。テントが10張程あった。漢拏山国立公園入山料(注)1600ウオン(約160円)と駐車料1800ウオンを払った。」

[入山券の裏面には、当日中に登下山すること、引火物所持・喫煙行為禁止と書かれており、テント泊や炊事は禁止されている。観音寺野営場は標高620m、頂上との標高差は1313mで厳しい登高となる。]

「6時17分に入山。城板岳コースより頂上に登って下山する際に、このルートについて書いたことがあるので、時間の記録を主とする。写真は沢山撮った。6時38分に登山入口より900m地点到着。この時期、日の出時刻は6時前なのに、樹林は濃く陽が差さない。1km地点で小さな溪流を越えた。水は無い。6時50分に1.3km地点でまた溪流。ロープが渡してある。

ここで2人に追い越される。初の人影だ。7時5分に1.91km地点でまた溪流だ。ブナ林が続く。登山路は溪流を渡り返したりして溪流沿い。登山路脇には笹が茂り、溪流は時々覗けるのみ。7時頃になり、木漏れ陽が差してきた。7時17分に2.3km地点で一息いれる。これまでペアが2組追い抜いて行った。7時35分に3km地点を通過。水なしの溪流を渡る。この直後から、急峻な木段の登りになる。7時45分に耽羅溪谷待避所に到着。崩壊の危険ありとの警告文が貼付されており、小屋に入れず。外のベンチで休憩、5分。」

[耽羅溪谷が現れる前辺りでは、日本統治の1940年代に作られた炭焼窯跡があるというが、気付かなかった。

耽羅溪谷待避所近くで、東耽羅溪谷と西耽羅溪谷が合流している。東西の耽羅溪谷間にある尾根は「蟻の背」と称され、登山路は蟻の背を進む。左側に不即不離の東耽羅溪谷を眺めながらの登高は、気宇壮大にさせるものがある。東耽羅溪谷は龍津閣待避所の横を経て白鹿潭頂上の北壁下に至っている。西耽羅溪谷は三角峰裏を経てクンドレオルムの絶壁下に至っている。]

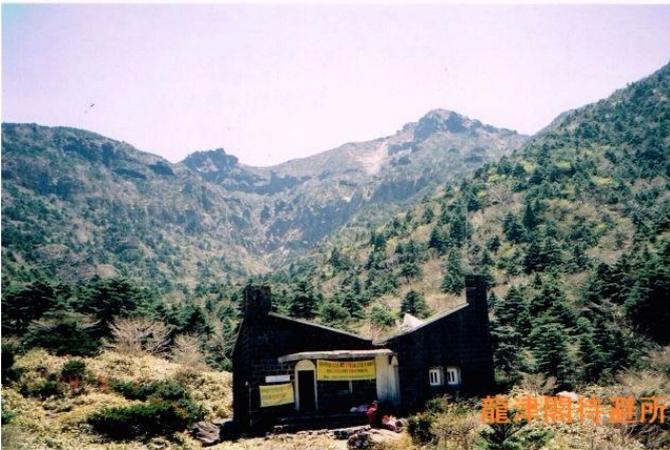
「8時20分に4.1km地点を通過。9時30分に5.7km地点を通過、標高1400mの石標あり。

この後、3kmで500m以上登るのだ。樹林相は灌木に変わりだした。陽射しがよく通り、明るくなった。9時45分に三角峰麓の6.3km地点到着。」

「三角峰の手前は東西の耽羅溪谷が狭く接近しており、「蟻の首」という地点がある。」

「10時に三角峰の先にあるコース唯一の水場(龍津閣水)で汗だらけのタオルを洗う。ヒヤリと冷たい。水場の上には人跡がないので飲んでも良さそうだ。10時10分に龍津閣待避所(無人)に到着、6.8km地点。残り1.9km。ここからの登りが厳しく、1時間半はかかる。ヘリコプターが白鹿潭辺りを飛んでいく。」

「龍津閣待避所の東西南の3方向、東側に王冠稜、西側にチャングモックオルム、南側に頂上白鹿潭北壁が聳えている。北側は耽羅溪谷に墮ちている。西側のチャングモックオルム付近は、雪積期には雪崩が起きやすい厳しい地形の故に、韓国登山家達の冬期訓練場になっている。龍津閣待避所は厳しい場所にある。



龍津閣待避所を過ぎると、左方向へ石の多い急峻な路が続き、30分程登ると巨大な岩棚のような王冠稜(ワンガンヌン)に至る。王冠稜は三角峰辺りから眺めると、西洋の王冠のように見える。王冠稜から山頂の白鹿潭までは、急坂でチョウセンシラベの樹林が続き50分程である。頂上近くの登山路からは白鹿潭の稜線をなす北壁の奇岩怪石が見える。」

「10時45分に王冠稜到着、7.4km地点通過。10時55分に標高1700m地点通過。11時20分に標高1800m通過。11時45分に山頂白鹿潭稜線の東稜に到着(標高1933m)。韓国人はせっかちで早足なので当然抜かれるが、今日は頂上まで10人程で少なかった。少ないのは登る人が少ないからだ。天気が良いので海岸線や漁港が見えた。水平線はゆるやかな円形。水平線の上は蒼空。白鹿潭の水は涸れそう。西稜の最高点標高1950mへは行けず、漢拏山東稜という標識前の階段教室みたいな板敷き部分から出られない。監視人が見張っている。昨夜作った自前の弁当を食べた。東稜での食事は禁じられているが、大目に見てくれたのか食事には文句が出なかった。」

「白鹿潭の名前は、昔白鹿に乗った仙人が舞い降りてきて水を飲んだという伝説に由来するという。白鹿潭は南北約400m、東西約600m、外周約1720mである。大雨が降らなければ、中心部の水位は、普通1m~2mに過ぎず、大雨後の満水時の水位は4m程である。粗面岩質のため漏水が激しく水位の低下が憂慮されている。内壁も崩壊が起っており、緑化麻袋を使って復元作業をしている。」



「12時15分には下山へ。13時20分に龍津閣待避所に到着。17時10分に下山終了。」

観音寺コースのコースタイム(距離:8.7km、登り所要時間:5時間)

登山口・観音寺野営場(標高 620m)―3.2km・1時間―耽羅溪谷(標高 860m)―1.7km・1時間 30分―蟻の首(標高 1400m)―1.9km・1時間―龍津閣待避所(標高 1520m)―0.7km・40分―王冠稜(1666m)―1.2km・50分―頂上白鹿潭東稜(標高 1933m)

(注)漢拏山地域がユネスコ世界自然遺産に登録された 2007 年 6 月以降、入山料は無料になった。

(つづく)